

組合員・仲間の皆様へ 25 春闘を前進させる一層の団結を呼びかけます

諸物価の高騰の中、大幅賃上げを獲得しよう！

連日、物流を止めることなく、夏は酷暑、冬は厳寒の中での厳しい労働環境の最前線で奮闘される皆さんに、心より敬意と感謝を表します。私たちは、依然として続く、生活用品や食料品、光熱費の値上げによって、日々のくらしが厳しくなっています。

一方、大企業は株主の顔色を伺いながら株主配当や内部留保を増やし、我々労働者の賃金や労働条件の原資となる料金の引き上げにに応じていません。これを乗り越え、現場の労苦に応え、大幅賃上げ獲得に向けてたたかう決意をかためようではありませんか！

日港協の「不誠実な回答」の姿勢を絶対に許さない決意を固め合おう！

25 春闘は、重要な局面を迎えています。日本全体では、政府が大幅賃上げを経団連や労働組合に求めて 10%以上の賃上げを行った産業もあります。

そのような中、3月11日に開催した中央港湾団交での第一次回答に続き、3月25日に開催した第二次回答でも、評価に値するものではありませんでした。昨年の確認書を反故にする、或いは後退した内容も見受けられました。

港湾産別労使は、船社・荷主や行政にきっちりモノを言い、理解を求めながら、産業の健全な発展のために必要な施策と対策を長い歴史の中で創り上げてきました。この産別労使関係は、労使が共に生きていくための不可欠な要件であり、「不誠実な回答」の姿勢は絶対に容認してはなりません。

そして、都労委・中労委は独禁法を理由にした団交拒否は不当労働行為と断じ、正常な労使関係に戻すよう「命令書」を発出しました。にも係わらず、日港協は、これを不服として国を相手取って行政訴訟を起こしています。このような暴挙を私たちは看過してはならないと決意を新たにしようではありませんか。

日港協は、港湾物流を支える港湾労働者の汗と労苦に誠意をもって応えよ！

〔3月30日(日)を第一次統一行動ゾーンとして24Hストライキを通告！〕

職場は人員不足が常態化し、過密・過重労働が続いています。団交では、「要求を真摯に受け止める」と前置きしますが、回答は不誠実極りないものです。

個別の労使協議で環境を整えようとするれば、企業間競争とユーザーの圧力で、結果として労務コスト切り下げへと向かうことは、火を見るより明らかです。だから、産別労使が集団的な労使関係の中で働くルール、港湾労働秩序の規範をつくってきたのです。

全国港湾と港運同盟は、第2回・第3回中央港湾団交での不誠実な回答に大幅修正を求めて、24Hストライキを通告しました。

仲間の皆さん、いまこそ労働組合の出番、頑張り時です。船社が莫大な利益を上げている中、今春闘で大幅賃上げを獲得するには、日港協として適正料金確保や不当に低い内航フィーダー料金の改善、港湾福利の拡充のための基金の増額で労働環境を充実せしめることが不可欠であり、そのために、産別結集と団結がどうしても必要です。現状打開へ、25春闘の前進に向かってストライキの決行を決意し、共に頑張りぬくことを強く呼びかけ、メッセージとします。

2025年3月26日

全国港湾労働組合連合会

中央執行委員長 竹内 一

全日本港湾運輸労働組合同盟

会長 足立賢次